

ギンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

ラン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

かつては普通の植物であったが、近年急激に減少し、ごく稀な植物となった。丘陵の土地造成、里山の管理放棄などが主な原因と推定される。(現況:V-)

形態

キンラン属の植物で、茎は直立して10~30cm。葉は柔らかく、長さ6~8cm、幅1.2cm、無毛、3~6個が互生に着き、茎を抱く。花は白色、唇弁に隆条線がある。種としては種内分化が顕著である。同じ種に属する変種ユウシュランであるが、この変種は葉が退化しているので間違えることはない。近縁種はササバギンランであるが、この種では苞がよく発達し、花序の下部の2花ぐらいいまでは、苞が花よりも長い。本種でも下部の2花ぐらいいまでは苞がよく発達するがそのようなことはない。また、別種のキンランは花が黄色である。なお、北海道、本州中部以北などに産するエゾギンラン var. *elegans* Masam. は、本変種の唇弁の中裂片が楕円形なのに対して、浅く三裂するものを指している。

国内分布

本州、四国、九州、さらに朝鮮半島に分布。

県内分布

奥能登、口能登区、加賀中央区、南加賀区。

生態など

地生の多年生草本。開花期は5~6月。

生育環境

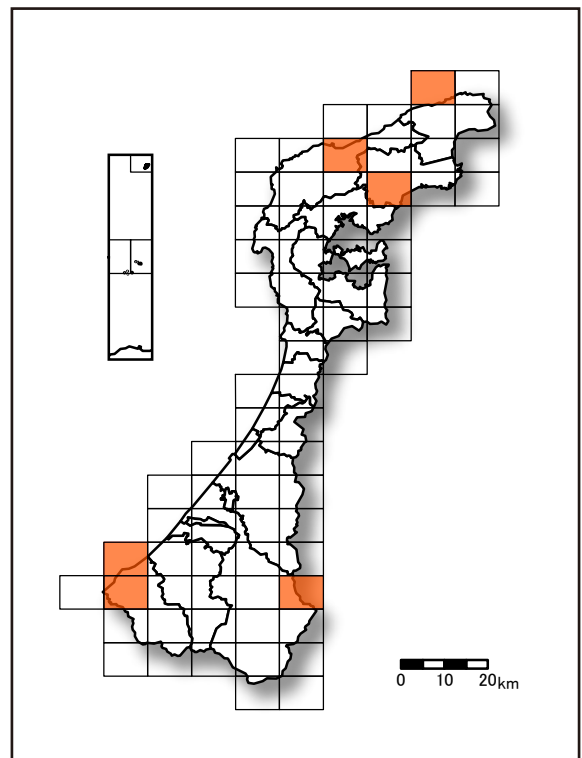
丘陵地などの疎林の林床や林縁の明るい場所、林道の路傍などに生育。

危険要因

森林伐採、土地造成、道路工事、農薬汚染、園芸採取、踏みつけ。



小野ふみゑ・2007年5月20日・輪島市



県内の分布